

『旅で心に豊かさを』 泰忍 弘



菩提達磨大師(中央上段)



大権修理菩薩(中央上段)

十六羅漢(安善寺本堂)

蔵王山 安善寺

◆編集・発行人◆
近藤真弘〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番10
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆

小林国二・高橋 潔・屋代 健
飯泉隆史・太田匡哉・山内芳次
近藤龍弘・近藤マリ子・近藤久美子

印刷・桝中央印刷



ホームページ



Instagram

ご家族の皆さままでご覧ください

六月の梅雨入りと共にうだるような暑さが続き七月八月がどうなるかと心配になります。そんな梅雨入り間もなくの六月十六日から十八日まで教区(曹洞宗近隣寺院の集まり)団体参拝旅行に行っていました。もともと安善寺の団体参拝旅行の歴史は古く、先代の時代戦後まもなくから稲荷講、観音講などで積み立てをして愛知県の豊川稲荷参拝の旅などを行っており、人気を博しておりました。

しかし、時代の流れと共に、旅行も個人で気軽に行ける時代になり、団体旅行参加者も年々減っていき、数年前からは安善寺単体ではなく近隣のお寺と合同で開催してまいりました。昨年は大本山總持寺御開山瑩山禪師七〇〇回大遠忌の年で、久しぶりの教区合同で団体参拝旅行を企画実行しました。その流れで本年も教区合



同で『善宝寺御祈禱と男鹿半島満喫秋田・花巻温泉の旅』を企画いたしました。参加人数こそ多くはありませんでしたが、天候にも恵まれ大変充実した参拝旅行でした。中でも私が最も印象に残ったのは、善宝寺です。善宝寺は曹洞宗の寺院で山形県鶴岡市にあります。修行僧がいる修行道場でもあり、曹洞宗の三大祈禱寺としても有名です。特に海運漁業関係者達の航海安全を願う御祈禱が多く、境内には全国でも珍しい魚類一切の供養塔として明治二十六年に建立された総けやき造りの五重塔があります。

そんな善宝寺の中でもとりわけ興味深かったのは奥の院に位置する龍王殿です。龍神様を祀るこの建物は龍神様が住まう龍宮城を模しているともいわれ、屋根の形は波のうねりを表し、床材に塗られた漆や彫刻として波しぶきなどが彫られており、海中を表していました。

江戸時代に建てられたこの建物は当時の技術の高さや、またそこに信仰をより具体的に高める工夫を加えた設えには大変感動しました。実は私は善宝寺に伺うのは今回が二回目でした。三十数年前に家族旅行で伺ったのが初めてです。丁度その時はテレビでも取り上げられた「人面魚」ブームのときで、人面魚テレホンカードを買ったのを覚えています。中学生の時とこの度と当然ですが自身の見どころが変わりました。ただ思い出としてはどちらも大変貴重なものであり、かけがえないものです。

来年以降も団体参拝旅行は企画する予定です。是非心を豊かにする旅行にご参加いただければ幸いです。

〔続〕安善寺の歴史

連載 第一回

昌興寺住職

石田 哲彌

堀直奇と長岡誕生の物語

【1】堀直奇（堀丹後守直奇）、初めて長岡の地を踏む

(1)長岡・蔵王に未来を夢見る

「坂戸の城は要害と言えど冬は雪深く、交通もままならない。蔵王の城は東南は遥かに高山峻嶺、西北には洋々たる信濃川を控え、船運・交通共に利便なると共に要害堅固なり」。

上田の坂戸城の城主、堀直奇は初めて蔵王堂の地を踏んだとき、そのすばらしい環境に気付き、思わずその感想を述べたのでした。慶長7年（1602）のこと。

時代は戦国末期。堀直奇は蔵王堂城主、堀鶴千代がまだ幼いことから、越後守護の家老、父の堀直政の要請によってその後見職となりました。彼にとつては蔵王がまるで故郷に帰ったような心地であったのでした。そして、時には気軽に農家に立ち寄って「困ったことはないか」などと聞いていたので、「庶民、大いに悦

服。その御仁慈に感謝し、従いけり」とあります。

(2)堀直奇という人物

堀直奇は越後守護、堀氏の傍系にあたる、家老家、堀直政の子供に生まれました。父の直政は越後の国主、堀秀治の執政として直江兼続と並び称せられた有能な人物でした。

堀直奇は先のように気軽に農家に立ち寄って、農家の実情を聞くなど、慈悲深いうえに、しかも氣宇壮大な人物でした。

彼の親友には徳川家康の相談役、天海僧正や柳生宗矩、そして沢庵禅師など、当代随一の傑物がいましたが、それも彼の豊かな人格によるものと思います。そうそう、直奇は天海僧正に上野（忍が岡）の寛永寺の敷地を寄進したり、「不忍池（忍ばずの池）」を開鑿したりした人物としても有名です。なお、上野寛永寺の工事を請け負った人物は有名な紀国屋文左衛門でした。

彼は14歳の時に、その英知と豪胆さを太閤、秀吉に認められて小姓に採用されました。

そして豊臣政権下のもとで、石田三成など優秀な家臣の卓越した都市計画や領地経営など、当時の最先端の技術や経営を学んできたのでした。

(3)上田の坂戸城（2万石）の城主に赴任

慶長3年（1598）、上杉景勝は豊臣秀吉の命令で会津に転封となると、替わって入封したのが堀秀治でした。その執政が直奇の父、堀直政です。直奇も心機一転、自分も越後に移ることを秀吉に直訴すると、秀吉は直奇の長年の功労に鑑み、彼を従五位下に叙し、魚沼郡上田の坂戸城（2万石）の城主に任命したのでした。こうして彼は勇躍、雪深い越後の地に赴任したのでした。

〔越後守護に降り掛かった災難〕
ところが堀家が越後守護に就任するや、上杉家の執政、

直江兼続の策動により、藩米の全てを持ち去られたり、上杉遺民一揆を起こされたりされるなど多難をきわめました。実は、この遺民一揆が関ヶ原合戦の前哨戦だったのでした。

そして慶長5年（1600）の関ヶ原合戦において徳川家康が天下を制したことから、ようやく越後にも平和が訪れたのでした。そして、慶長7年、直奇は蔵王堂城主、堀鶴千代の後見職に迎えられたのでした。

【2】信濃川決壊により、新しい城と城下町の造成を決断

(1)壮大な都市計画

ところが、堀直奇が後見職に就いた蔵王堂城は大河、信濃川の度重なる洪水によって決壊され、使用不能に陥っていました。そこで彼はさつそく新しく城を築くことを決意したのでした。彼の計画は、城地は蔵王堂の南の丘陵地、大島庄平方（ひらがた）原とし、そこに「城と城下町を一体化」した城郭を築き、その外には自由経済都市とするという、これまで誰も考えたことのない壮大なものでした。

自由経済都市とは当時、楽市楽座と呼ばれた税率の低い商業都市のこと、その位置は信濃川西岸の大島や古正寺などの広大な地を想定していたのではないかと思います。そして、全国から商人や職人を集めて自由な交易をおこない、豊かな町とする。まさに夢のような遠大なプランでした。

城郭の規模はかつての四郎丸、現在の弓町を南端とし、北端は国道351号線の南、稽古町の長興寺ライン。そして東西は四郎丸の前において赤川を分流させ、その川に強固な土堤を作って内曲輪とする。そして、その外を流れる栖吉川と大河、信濃川を外曲輪にする。こうして長岡城と城下町を「鉄壁の構えを備えた城郭」としたのでした。総面積は約4万坪、人口は武士・町民含めて約1万5千人が住めるような広大な城下町を想定したのでした。

(2)工事着手。安善寺、新政庁に（蔵王権現別当安禅寺政務を分採）

直奇は築城工事にあたり、神田の安善寺境内に庁舎を建てて新政庁とし、これまでの政庁、

蔵王権現別当安禅寺の職務一切を安善寺に移転しました。そして、新政庁安善寺に勘定奉行をはじめ、設計士・測量士をはじめ建設・土木関係の職人や人夫物資の調達を差配する町人頭など、多様な人材を集めて、ただちに仕事にとりかかったのです。また直奇自らも安善寺に宿泊して総指揮を採り、彼らを叱咤激励して歩いたことから、安善寺はまさに活気に満ちた戦場のような賑わいではなかったかと想像されます。直奇の安善寺滞在は、記録によれば「3年間」とありますが、おそらくは長岡城完成まで安善寺を根城として頑張っていたのではないかと思います。

とはいえ、彼は、彼は大御所、徳川家康に信頼され、上野に下屋敷を賜り家臣同様の側近として活躍していましたが、長岡に帰れば直ちに現場に立つて陣頭指揮者を採っていたに違いありません。

さてその遠大な都市建設の進行状況を追ってみましょう。

次回〈続 安善寺の歴史 連載第二回〉に続く

『花と愛犬に癒されて』

近藤 マリ子



萱草



ももとマロ

「庭は三年経つと落ち着く」と言われますが、玄関前の古くて汚かったガレージをなくして庭にしてから三年、ようやく前の庭は植木鉢から地に植えかえした萱草がオレンジ色の鮮やかな花を咲かせ、クナシは無数の蕾をつけて咲くのを待ち、何年か前から挿し木で増やしてきた紫陽花もたくさん花が咲き始めました。たが「梅雨を彩る紫陽花」といわれている花なのに連日の猛暑、悲鳴をあげているようです。

何時のまにか歳を重ねてきた歳月、自身の歳を声に出して言ってみると、リアルにもうこんな年齢になってしまったのかと、しみじみ感じてし

まいます。有り難いことに足腰の痛みもなく、普段は元気に家の中を走りまわり、十歳になったシェパード（もも）と一歳のトイプードル（マロ）を相手に庭でボール投げをしたりするのが日課になっているので元気でいられるのでしょうか。そんな事をしていると時折、塀越しに「奥さんぜんまい、いりますか？」とか「タケノコ食べますか？」なんて言うてくださる方がいらつしやるので、有り難いことです。先日、フィリアの予防薬をいただく為に動物病院に連れて行った際、ももちゃんを診察してくださった獣医さんに「十歳の大型犬でこんなにしっかりと犬を初めて

みました。」とお褒めの言葉を戴き、嬉しくなりました。足を少し引きずるようになったのが少々気がかりですが、その分、澄んだ目でジッと見つめられる事が多くなり、話すことができたなら、何を言いたいのか？なんて思っています。時折、マロに尾を噛まれると凄い勢いで威嚇する姿を見ると、マロの存在も、ももちゃんの元気につながっているのかな？と。

五年くらい前は、お寺の境内で小学生の子供達の賑やかな声が絶え間なく聞こえ、十人くらいの子供達が遊び回ったりしていたのですが、上の子供が中学生になったら、他の子供達の遊び声も聞かなくなつたどころか、姿も見か

けなくなりました。一方で、お一人になられた高齢の方々が何人もおられるのに気づき、取りあえずお声を掛けられる方々だけで（私も含め七名）お茶のみ会をすることに、僅かな時間でしたが町内でお会いしても会釈だけだった方とも楽しい会話が弾み次回の予定も決まり、他の方にもお声かけすることになりました。



紫陽花



もも

南国奄美の海と山に会いに行く

太田 匡哉

新潟では2024年に佐渡島が

世界遺産になりましたが鹿児島県の奄美大島も2021年に世界自然遺産に登録されました。奄美大島に帰り穏やかな海と山々を見ていくのを感じます。私は家族が奄美に縁がありまして毎年子どもたちと遊びに行っております。今回はぜひ一度は訪れていただきたい南国奄美大島の魅力を皆様にお伝え

できればと思います。

新潟からのアクセス。奄美大島には各地から出ている飛行機と鹿児島から出ている船とで行くことができます。羽田空港から毎日一往復のJAL便があり、伊丹空港からも一往復出ています。成田空港からの値段の安い早朝発のピーチ便が最近人気です。鹿児島からは1日に数本飛んでおり台風などが来たときは鹿児島まで移動して飛んだこともあります



龍郷町の海岸



国直海岸近くの堤防



南国の植物アダン

た。飛行機に2回も乗るのがつらいので伊丹で乗り継ぎをするのではなく当日に新幹線で移動して羽田空港から飛ぶことが多いです。

海。島の西側は日本海ではなく東シナ海です。奄美大島の海は新潟の様にクラゲがいらないので天気が良ければ9月いっぱいまで泳げます。シュノーケリングができれば沖に行かなくてもすぐにサンゴや南国の色彩豊かな魚たちを見ることができそうです。2回ウミガメと一緒に泳ぐこともできました。子どもたちが泳ぐのも釣りをするのも好きなので魚も採って食べていますが新潟の魚に比べると身が柔らかいのでお刺身よりもから揚げや塩焼きなどが似合います。見た目はカラフルでもおいしいお魚がたくさんあります。ウミガメの産卵場所となる海岸は街灯を減らしているのでも星がとてもしきれいです。ぜひ夜の空と海の波の音を堪能していただきたいです。

山。本州の杉の植林が多い山と比べると亜熱帯地方にあたる奄美の山は広葉樹林やヒカゲヘゴなどのシダ植物があり形がもこもこしています。私は子どもたちにブロッコリーみたいな山だねと話しています。シダ植物が群生している金作原きんさくはらという地域はさながら恐竜の時

代にいるかのような雰囲気です。世界遺産に指定されている地域は一日に入山する人数制限ができたのでツアーガイドを頼んで回ると、奄美の固有種の植物や昆虫たちを紹介してくれます。またアマミノクロウサギなどの夜行性の動物が見たければナイトツアーがおすすめです。クロウサギやケナガネズミ（日本最大のネズミ）、アカシヨウビンなどの鳥、ハブなども見ることができます。ナイトツアーは大人も子どももみんな大喜びしてくれます。

川。奄美大島の中央部にある住用川にはマングローブの林があります。その川ではカヌーを使って川から自然を観察できるカヌー体験が人気です。2人一組での参加もできるのでお子さんと一緒にカヌーを漕ぎながらマングローブに住む生き物を観察できます。山がそこまで高くないため川の流れは穏やかで簡単な事前レクチャーを受ければ初めてでもカヌー体験を楽しめます。食。奄美大島に行ったらぜひ鶏飯けいはんを食べてみてください。ご飯に鶏肉や錦糸卵、パイアの漬物を乗せて鳥出汁のスープをかけて食べる島料理です。何杯もお代わりしたくなる味で私も3杯は必ず食べます。お店ごとに味の違いがあり食べ比べ

べてほしいです。私のおすすめは空港近くの『ひさ倉』さんです。他にも油そうめん、とびんにや（貝）、魚のから揚げ、まだ汁（イカ墨の味噌汁）、マンガーやたんかん（柑橘類）などおすすめがたくさんあります。お酒は奄美諸島でしか作ることのできない黒糖焼酎の水割りがおすす

めです。観光。必ず訪れて欲しいのは奄美パークにある田中一村美術館です。奄美で生涯を閉じた画家田中一村の絵を常設で展示しています。先日も東京で展覧会がありました。一村さんの絵はぜひ奄美の地を訪れてその空気を吸ってから見てほしいです。美術館も素晴らしく本当に一度行く価値がありますのでおすすめです。

長岡の田んぼが広がって稲が風になびく姿が幼少期の私の原風景ですが、奄美では初めて訪れた時に見た背よりも高いサトウキビ畑が原風景です。薩摩藩の支配下時代に稲作を禁止されて砂糖を作られた歴史を知ると考えさせられることもありますが文化風習として残り今も続いています。旅は歴史と文化を楽しむことも醍醐味です。皆さんもぜひ南国の奄美にいらしてください。

東堂和尚のつぶやき

『長岡市仏教会花まつり』

今年も五月五日に、長岡市大手通りの歩行者天国を会場に第九十九回「花まつり」行事が開催されました。昭和二十年八月一日の長岡空襲で市街地の八割が消失しましたが、安善寺は山門以外、焼失を免れましたので、長岡市仏教会の「花まつり」が再開された時から、当山が仏教会事務所となり、毎年二月中旬頃から宗派の垣根を超え、多くの寺院の方々が出入りし、五月五日に向かって一生懸命準備されておられた姿が思い返されます。私も二回稚児として、花まつりに参加させていただきましたが、当時の事が懐かしく思い出されます。

今年も檀信徒の皆様には「喜



大手通り歩行者天国で法要



昭和20年代後半安善寺を出発

捨袋」での浄財のご協力をいただき、八万四千円を「花まつり奉賛会」に寄付させていただきました。厚く御礼申し上げます。長岡市仏教会の歴史は長く大正十一年に第一回「長岡市花まつり」が開催され、その後昭和十六年から十七年まで、長岡市内の仏教寺院は宗派を超えて協力



ビルの間でのお練り



昭和20年代後半関東町付近

し「花まつり」行事が継続されてきましたが、戦時中数年間は開催できませんでした。戦後まもなく開催され、今日に至っております。これはお釈迦様の教えを尊び「花まつり」を中心に長岡市仏教会を脈々と伝えてこられた、各宗派の先人の方々のお陰です。来年は記念すべき第一〇〇回目を迎えることとなり、仏教会でも素晴らしい「花まつり」にすべき検討を重ねております。

安善寺よろず掲示板

『寺行事予定』

八月一日

盆参(新盆)

十三日

盂蘭盆会法要

(墓施食)

十四日

新盆棚経

十五日

お盆供養法要

(午前・午後)

十七日

墓地大清掃



*時間等の詳細はホームページをご覧ください
*新盆の方には改めて法要と棚経のご連絡をいたします

安善寺 庭園型樹木葬『翠緑の小径』

お盆に樹木葬墓地で御法要
どんなでもお申込みいただけます
価格に合わせたプランがあります

お盆に樹木葬墓地で御法要
どんなでもお申込みいただけます
価格に合わせたプランがあります

お盆に樹木葬墓地で御法要
どんなでもお申込みいただけます
価格に合わせたプランがあります

お盆に樹木葬墓地で御法要
どんなでもお申込みいただけます
価格に合わせたプランがあります

お盆に樹木葬墓地で御法要
どんなでもお申込みいただけます
価格に合わせたプランがあります

【お問合せ】株式会社 放光
フリーダイヤル 0120-811-112

安善寺 樹木葬墓地ご案内ページ
<https://anzenji-jyumokusou.com/>

仏さまのおすそわけ
数珠つなぎフードパントリー

～誰ひとりとり残されない世の中に！お寺を提供の場へ～

食材や日用品の提供にご協力ください！！



* 詳細はお寺にお尋ねください *

協力：新潟県フードバンク連絡協議会



海外からの

お客さま



ついに暑い季節がやってきたなあとか冷たい廊下でゴロゴロしている私の前に彼はやってきた。

背が高くチャームス。テキサス州フォートワースからきた中学生です。なんと彼にとって初めての海外旅行がこの日本旅行だそうです。6日間のホームステイ、日本の自然や文化に興味がある彼には昼の間で寝てもらったり、日本の原風景である山古志を訪れて自然を満喫してもらったようです。日本食ではお気にいりの昆布のおにぎりと味噌汁を毎朝嬉し



長岡駅にてお迎え



ビビと一緒に

そうに食べ、その姿に久美さんも満面の笑み。キャットフードしか食べない私ですらおにぎりに興味津々に：英語しか話せない彼との会話に家族は四苦八苦。困った時は翻訳アプリを駆使するのですが、住職は英語よりも翻訳アプリのマスターとなり、頼もしい存在でした。それでも毎日一緒に生活しているとなんとなく通じ合ってくるものがあるようで、滞在中に迎えた彼の誕生会では大盛り上がりでした。何よりもすごいと感じたのは世界共通のゲームの力。言葉の壁

なんてなんのその、子供達はカタコトの英語で楽しそうに過ごしていました。ホームステイの間だけは久美さんの小言が飛んでこないのをいいことに思いっきりゲームを楽しでいた真人君と悠真君、この後が怖いですよ。あつという間の6日間が過ぎ、最後の駅での見送りで久美さんは号泣。絶対テキサスに行く！と意気込んでいました。そのためにも久美さんは英語を本気で勉強しようと思ったようです。携帯の翻訳機を使えば簡単に会話はできるのですが、自分の言葉で話すほうが心が通じる気がします。"アン、ビビ"と優しい声で呼びながら撫でてくれるその声の主がもういないと思うと淋しくてたまりません。ジェームス、またいつか会いにきてほしいにゃん。

編集 雑感

6月の中旬に、安善寺様のご案内で、長岡市内の御寺院の法要・講話に参加しました。その講話での講師演題は、「受け継がれていくもの」で、その際、配布資料の項目の「菩薩の誓願に生きる」の中に、詩人と書家の「相田みつを」さんの次の詩が紹介されていました。

あなたがそこにただいるだけで
その場の空気があかるくなる
あなたがそこにただいるだけで
みんなのこころがやすらぐ
そんなあなたにわたしもなりた

(相田みつを)

この詩を読んで、真つ先に頭に浮かんだのは、6月3日に89歳で

亡くなった、日本プロ野球「読売ジャイアンツ」の元選手、そして終身名誉監督であった長嶋茂雄さんでした。

とにかく明るいい人だったと思います。これまで国民的スターとして親しまれてきましたが、亡くなってからの数々の報道に接する度に、改めて長嶋さんの足跡に多くの国民が、それぞれ自分の生きてきた時代を重ね、深い感慨に浸ったと思います。

皆さんご存じだと思いますが、優れた野球での活躍とは別に、その人間性から数々のユニークな名言・迷言を残しました。

私が初めて知った名言は、長嶋さんが初めての海外遠征でアメリカの空港に着くなり、空港の駐車場を見て言った一言で、「すごい！みんな外車だ！」だったと思います。

晩年、病に倒れましたが、困難なりハビリに立ち向かい、その自分の懸命な姿を見せることで、同じような病気からの回復を目指す人たちに、たくさんの勇気を与えました。

いつも明るく、太陽のような存在で周りの人を元気づけてくれ、その人柄と生き方で、ありとあらゆるポジティブな表現で称えられた人。その余韻をいつまでも胸の中に留めておきたいと思います。

(山内 芳次)

お便り原稿用紙

皆様からの原稿をお待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や住職がお答えします）など。

FAX 0258-32-2870

〈原稿送付先〉メール info@anzenji-nagaoka.com

HP にも申込フォームがあります